

新型コロナウイルス禍における無参列法要の増加について

中島大成・中島岳大

① 無参列法要とは

私どもの定義する無参列法要とは年回忌法要を中心に参列者がお堂に一人もいない状況で法要を行うことである。檀信徒へ無参列法要とその仕組みを周知するにあたり、呼称をどうするか検討を重ねる中で「代行」という言葉はご法事が代行で今後成り立っていくもの、という誤った認識を広めることが懸念されたため「無参列」「名代」という言葉を選択した。ご法事そのものは参列した場合と変わりなく執り行われるため、仏花、卒塔婆については参列法要と同様に受付することを記載し檀信徒へ実際に告知している。あくまでも手を合わせる場所が本堂から外部へ移行した、という位置づけであるため、各自宅に仏壇がある場合は、仏壇の前にて、職場にいる場合でもご法事の日時を迎えた場合には合掌、合掌が難しい場合には故人に対して意識を向けるように促している。したがって、無参列型法要の場合においても日時は事前に施主と相談の上、確定して行っている。

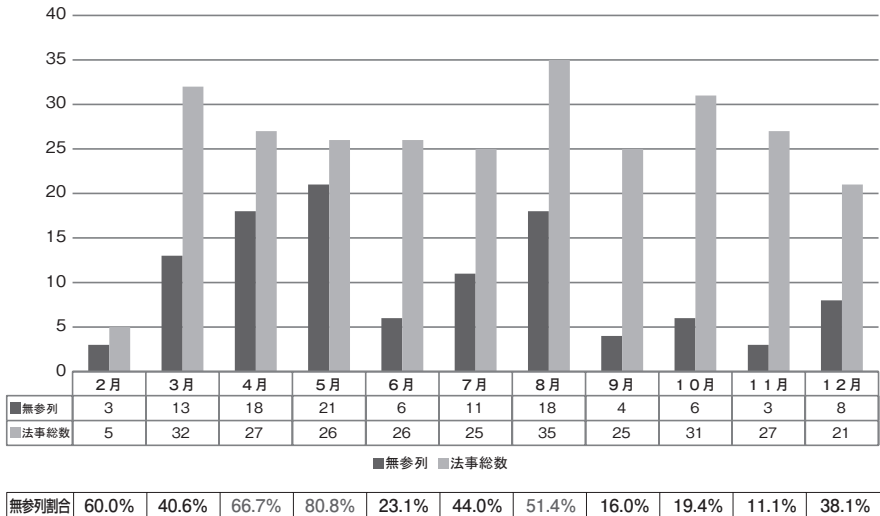


お布施、卒塔婆料、仏花等についてはご法事の案内を郵送する際にご法事専用の振り込み用紙（口座名、口座番号、必要事項を記載）を封入し、お寺へ送る仕組みとしている。

② 無参列法要の実績

本立寺における無参列法要の実績は、二月下旬から十一月下旬において総法事数二八〇件中、無参列は一一一件とおよそ四〇％となっている。中でも緊急事態宣言が発出された四月および五月においては無参列法要の割合が高くなっており、四月は二七件中、一八件が無参列（六六・七％）、五月は二六件中、二一件が無参列（八〇・八％）と高水準に達している。その後、五月二十五日の緊急事態宣言解除に伴い六月、七月はそれぞれ無参列法要の比率が二三・一％、四四・〇％と通常の法事が増加傾向にあったものの、東京都で再び新型コロナウイルスの感染者が増加した八月には無参列法要の割合は五一・四％と上昇したことから新型コロナウイルスの状況と相関関係があることがわかる。

法事総数における無参列法要実績の推移



を補強した。具体的にはサーモグラフィを導入し、迅速かつ大勢の検温を可能とした。三七・五℃以上の体温がある場合はお堂あるいは建物内への立ち入りはお断りすることとなっている。八月に入り陽性者が再び増加傾向に転じると、檀信徒からの直接の要望もあり、動画配信サイト「YouTube」を利用したオンライン配信を開始した。山内対策については、不要不急の会合、会食は避けるよう徹底し、PCR検査キット、即日検査キットを常備し、疑わしい症状が出た場合は山内にて迅速に検査できる体制を整えている。

④ 無参列法要のアフターフォロー

通常のご法事と同じように仏花と墓花の手配も行うため、法要が終わった後に、墓所まで行き、お花を供え、卒塔婆を立てお線香を手向けるところまでを無参列法要としている。また法要当日の様子を六枚の写真として撮影し、施主の元へ届け、確実に法要が行われたことを報告している。オンライン法要の手段もあるが、施主はご高齢の場合が多く、十分にDXが進んで



いるとはいえず、郵送での報告を希望する檀信徒が多いのが現状である。

⑤ 檀信徒の声

無参列法要を終えた檀信徒からは実際に次のような声がかかれた。

家族で意見が割れたのでお寺に無参列を決定してもらって良かった（七〇代 女性）。

墓参ができなかった心残りはありますが、写真を拝見し安堵いたしました（七〇代 男性）。

親戚に写真を見せられて良かった（八〇代 女性）。

法要の様子を写真でご送付いただきありがとうございました。ご親切なご対応に心から御礼申し上げます。当日法要と同じ時刻に仏前にて供養いたしました（七〇代 男性）。

⑥ 総括

無参列法要は私たちの予想を超えて受け入れられたが、ご高齢の方と接して感じることは高齢者は新型コロナウイルスの情勢に私たちが思う以上に慎重になっている、ということである。したがって、できる限り不安を取り除ける準備を整え、法要に際しても豊富なバリエーションを揃えることがコロナ禍においてもご法事を継続させるキーなのではないかと思う。檀信徒は無参列では当然法要は成り立たないと思っている人が一定数いるため、無参列でも法事



ができることを認知していただくことが無参列法要を行う際は必要である。また、オンライン法要ではコンピュータの具合、配信の状況をモニターする役割の担当者が必要となるため、法要に人員が必要となること、LAN環境の整備など配信側の課題も多い。同じことは受信側にもあてはまり、施主自身が単独では受信環境にない場合も珍しくない。そのような場合は高齢者でも他者に頼らず法要後の報告を受け取れる写真郵送方式がシンプルにして有効である。現在は参列型法要、無参列法要、オンライン法要の三種類を用意しており、重症化リスクの低い者が参列し、不安な者、高リスクな方はオンラインで視聴する等、組み合わせで行うこともある。私どもは引き続き、未だコロナ禍脱却の見通しが立たない中、施主にご法事のオプションを揃え、多様な立場と環境にある檀信徒の要望に適切に添えていく次第である。

以上

